

Ver. 1.1 (2026/1/17 作成)

札幌医科大学附属病院産婦人科にて 卵巣がんに対し治療を受けられた方およびそのご家族の方



当院では卵巣がん再発治療に関する多施設共同研究に参加しております。この研究は卵巣がん再発の患者さんに対しての治療を最適化するための基礎となるデータを収集する観察研究です。日本各地の大学病院・がん専門病院と共同して研究を行います。

この研究の対象者に該当する可能性がある方で、
診療情報等を研究目的に利用または提出されることを希望されない場合
研究への協力を希望されない場合、あるいは協力を途中でおやめになりたい場合は 2027 年 3 月 31 日までに末尾に記載の問い合わせ先までご連絡ください。

【研究課題】

卵巣癌オリゴ転移再発に関する多施設調査研究

【研究機関名及び研究責任（代表）者氏名】

この研究が行われる研究機関と研究責任者は次に示すとおりです。

主任研究機関 東京大学医学部附属病院 女性外科/女性診療科・産科
研究責任者 谷川 道洋・東京大学医学部附属病院女性診療科・産科・講師
担当業務 研究計画立案・データ取得・データ解析

【共同研究機関】

研究機関 がん・感染症センター都立駒込病院
研究責任者 喜納 奈緒・婦人科部長
機関の長 戸井 雅和・院長
担当業務 研究計画立案・データ取得・データ解析
研究機関 岩手医科大学附属病院
研究責任者 馬場 長・産婦人科教授
機関の長 森野 禎浩・病院長
担当業務 研究計画立案・データ取得・データ解析
研究機関 岐阜大学医学部附属病院
研究責任者 磯部 真倫・産婦人科教授
機関の長 秋山治彦・病院長
担当業務 研究計画立案・データ取得・データ解析
研究機関 札幌医科大学附属病院
研究責任者 齋藤 豪・産婦人科学講座教授
機関の長 渡辺 敦・病院長
担当業務 研究計画立案・データ取得・データ解析
研究機関 筑波大学附属病院
研究責任者 佐藤 豊実・産科婦人科教授
機関の長 平松 祐司・病院長

担当業務	研究計画立案・データ取得・データ解析
研究機関	鳥取大学医学部附属病院
研究責任者	佐藤 慎也・産婦人科講師
機関の長	武中 篤・病院長
担当業務	研究計画立案・データ取得・データ解析
研究機関	松山赤十字病院
研究責任者	栗原 秀一・産婦人科部長
機関の長	西崎 隆・院長
担当業務	研究計画立案・データ取得・データ解析
研究機関	東京女子医科大学病院
研究責任者	田畑 務・産婦人科教授
機関の長	西村勝治・病院長
担当業務	研究計画立案・データ取得・データ解析

この研究に利用する情報は共同研究機関の範囲のみで利用されます。

【研究目的・意義】

卵巣がんは、本邦で年間約 13,000 人が罹患し、約 5,000 人が亡くなっている重要な疾患です。早期発見が難しいことから進行がんとして診断されることが多く、手術や化学療法を中心とした治療が行われていますが、再発することも少なくありません。再発後の治療効果はまだ十分とは言えず、再発卵巣がんの予後（病気の経過）を改善することが、依然として重要な課題となっています。

近年、悪性腫瘍の転移が局所に限局した「オリゴ転移」という病態が注目されています。これは、がんが全身に広がる手前の段階と考えられており、根治的な強度の局所治療（手術や放射線治療）によってがんを根絶できる可能性がある、という概念です。特に、高い精度で大線量を短期間に照射する体幹部定位放射線治療（SBRT）が普及するにつれて、乳がんや肺がんなどでは、オリゴ転移に対する放射線治療が標準治療と比較して予後を改善することが報告され、その重要性が強く認識されるようになりました。

オリゴ転移は、一般的に転移病変が 3 個以下、または 5 個以下の状態と定義されることが多いですが、その概念は一律ではなく、がんの種類や生物学的特性、転移臓器、治療感受性などを総合的に評価し、局所治療の有効性が期待できるかを慎重に検討することが重要であるとされています。

卵巣がんに対する放射線治療の多くは、これまで症状緩和を目的としたものでした。予後改善を目的とした根治的な放射線治療に関するデータは非常に限られており、少数例の後ろ向きな検討や、限られた数の第 II 相試験の報告があるのみです。これらの報告では、放射線治療によって照射された範囲内の病変は高い確率で制御されていますが、照射範囲外でがんが進行してしまう症例も少なくなく、予後全体としてはまだ十分とは言えないのが現状です。一方で、これらの放射線治療に関する重篤な有害事象は報告されておらず、安全性は高いと考えられています。

しかし、卵巣がんのオリゴ転移については、適切な定義や、その頻度、他のがん腫と同じように局所治療の有効性が期待できるのか、といった点について不明な部分が多く残されています。そこで本研究は、再発卵巣がんの患者さんの中で、特にオリゴ転移再発をきたした症例に着目し、その臨床的特徴や治療内容、そして予後について、オリゴ転移ではない患者さんと比較検討することで、その実態を解明することを目的とします。この研究で得られたデータから、局所治療（放射線治療など）が有効と考えられる患者さんの特徴が明らかになれば、将来的にそれらの患者さんを対象とした新しい臨床試験の計画が可能になります。そして、その試験で有効性と安全性が確認されれば、現在多

くの場合に化学療法しか選択肢がない再発卵巣がん患者さんに、放射線治療という新たな治療選択肢を提供できる可能性が期待されます。

【研究期間】

研究実施許可日 ～ 2029 年 3 月 31 日

【対象となる方】

2018 年 1 月 1 日 ～ 2022 年 12 月 31 日の間に上皮性卵巣がん、卵管がん、または原発性腹膜がんと診断され、治療がおこなわれた方。治療として緩和ケアのみが行われた方は除きます。

【研究の方法】

これまでの診療で診療録（カルテ）に記録されている治療内容、画像検査、病理検査などのデータを取得して行う研究です。具体的には、診断時の組織型・病期・遺伝子検査結果、初回治療時の手術の内容・化学療法の内容、再発時の診断状況や治療内容、治療後の経過、などのデータを収集します。特に研究対象者の皆さんに新たにご負担いただくことはありません。

参加予定人数は全体で 450 名、当院で 50 名程度を想定しています。

提供いただいた情報は、共同研究機関である東京大学医学部附属病院、がん・感染症センター都立駒込病院、岩手医科大学附属病院、岐阜大学医学部附属病院、札幌医科大学附属病院、筑波大学附属病院、鳥取大学医学部附属病院、松山赤十字病院、東京女子医科大学病院と共有し、解析を行います。調査内容は個人が識別できない状態として集計・統合し、パスワードをかけてファイルとして保存します。これを上記の各共同研究機関から研究事務局（東京大学医学部附属病院女性外科）に電子メールで送付し、統合した上で解析をおこないます。氏名、診察券番号、生年月日などは収集しないため、研究対象者の皆さんのお名前等が、他機関に伝わることはありません。

利用又は提供を開始する予定日：実施許可日（2026 年 5 月 18 日）

なお、研究計画書や研究の方法に関する資料を入手・閲覧して、研究内容を詳しくお知りになりたい場合は、末尾の連絡先にお問い合わせください。他の研究対象者の個人情報等の保護や研究の独創性確保に支障がない範囲でご提供させていただきます。

【個人情報の保護】

この研究に関わって取得される情報は、外部に漏えいすることのないよう、慎重に取り扱う必要があります。

取得した情報は、氏名・住所・生年月日・カルテ番号等の個人情報を削り、代わりに新しく研究用の符号をつけ、どなたのものか分からないようにします。どなたのものか分からないように加工した上で、研究者のみ使用できるパスワードロックをかけたパソコンで厳重に保管します。ただし、参加拒否の申し出期限までにお申し出いただいた場合には、当診療科においてこの符号を元の氏名等に戻す操作を行い、あなたの情報を廃棄することができます。

この研究のためにご自分（あるいはご家族）の情報を使用してほしくない場合は主治医にお伝えいただくか、下記の問い合わせ先に 2027 年 3 月 31 日までにご連絡ください。なお、研究に参加いただけない場合でも、将来にわたって不利益が生じることはありません。

ご連絡をいただかなかった場合は、ご了承いただいたものとさせていただきます。

国内外の学術雑誌での公開にあたっては、研究成果の第三者による検証や複数の研究の結果を統合して統計的に検討する際の際の原資料となることもあるために、解析・論文作成に用いたデータを学術雑誌社・学会（誌）へ提供・公開すること、また保管されることがあります。提供・公開されたデータは国内外にある学術研究機関だけではなく、製薬企業等の民間企業等により、研究や製品開発等のために分析、利用される可能性があります。

研究の成果は、あなたの氏名等の個人情報が明らかにならないようにした上で、学会発表や学術雑誌、国内（及び海外）のデータベース等で公表します。

取得した情報は厳重な管理のもと、研究終了後5年間保存されます。今回の研究以外の目的にはデータを使用（二次利用）することはありません。保管期間終了後には、パソコン内の電磁的文書を専用消去ソフトを用いて完全抹消することで廃棄します。なお研究データを統計データとしてまとめたものについてはお問い合わせがあれば開示いたしますので下記までご連絡ください。

尚、提供いただいた情報の管理の責任者は下記の通りです。

情報の管理責任者

所属：札幌医科大学附属病院 病院長

氏名：渡辺 敦

この研究は、東京大学医学部倫理委員会の承認を受け、札幌医科大学附属病院病院長渡辺敦の許可を受けて実施するものです。

この研究に関する費用は、科研費の研究助成（令和7-10年度、助成番号25K18439、課題名マルチオミクス解析とBRCA1メチル化卵巣がん症例の薬剤耐性獲得機構の解明）から支出されています。

本研究に関して、開示すべき利益相反関係はありません。

尚、あなたへの謝金はございません。

この研究について、わからないことや聞きたいこと、何か心配なことがありましたら、お気軽に下記の連絡先までお問い合わせください。

2026 年 5 月

【連絡・お問い合わせ先】

研究責任者：齋藤 豪

連絡担当者：長尾 沙智子

〒060-8543 札幌市中央区無浪1条西16丁目291番地

札幌医科大学附属病院 産婦人科

電話：011-611-2111